

江本 佳菜子（えもと・かなこ）
ルーヴァン・カソリック大学大学院 欧州研究プログラム（ベルギー）修士修了
九州大学法学府 修士修了

国連薬物犯罪事務所本部/条約局/組織犯罪・不正取引部
人身取引・移民密入国課 (UNODC Human Trafficking and Migrant Smuggling Section)
インターン期間：2013年12月2日～2014年5月30日（6カ月間）



（人身取引課でお世話になった職員の方々と）

■はじめに■

UNODC は、不正薬物や越境組織犯罪を扱う国際機関です。私がインターンをしたのは、人身取引（人身売買）と密入国に対処する課です。この部署では、加盟国が国際組織犯罪防止条約、人身取引・移民密入国議定書の内容に沿った国内法を整えるための法整備支援や、被害者・犯罪者に適切な司法的対応がとられるよう関連省庁・司法担当官への研修、リサーチなどを行っています。

■インターン採用決定まで■

私がインターンをしたのは、ベルギーで欧州連合 (EU) とグローバルガバナンスについて学ぶ修士課程に在学している時でした。人身取引を題材に、EU 及び国際諸機関の連携の在り方について論文を執筆していたため、人身取引対策で中心的なマנדートを持つ UNODC に関心を持っていました。

関連部署での求人を見かけたことがなかったため、在ウィーン国際機関日本政府代表部に問い合わせたのがインターン実現のきっかけとなりました。代表部の方が様々なアドバイスをくださっただけでなく、私がインターンに関心をもっていることを UNODC の該当部署に伝えてくださいました。また、直接 UNODC 職員の方とお話したいことを相談すると、面談の機会も設けてくださいました。この面談は実質面接のような形になり、3人の職員の方々から勉強してきたこと、関心分野、事務能力、言語能力など色々なこと質問されました。その場で職員の方たちからとても肯定的な反応をいただき、現在募集はしてないが機会創出のために今後動いていくこと、ポストを作り公募するまでにライティングサンプルとしてこれまで書いた英語の論文を提出するよう指示がありました。その後実際に web 上で希望に沿った求人があり出願したところ、最初は3カ月の契約で採用していただ

き、最初の契約が終了する頃にさらに3カ月契約を延長していただくことができました。

採用の理由について、面談を担当した職員の一人からは「この分野に関心があることが非常にはっきりしていたため採用しやすかった」とインターン終了時にコメントをいただきました。また、「法学のバックグラウンドがしっかりと同時に政治・政策も勉強してきていること」、「人身取引そのものだけでなく、移民政策、難民や国際人権法など人身取引に関連する問題や規範についても知識があること」、「UNODC が中心となっている国際フォーラムやグローバルプログラムなど、各種枠組みについての知識とその問題点が理解できていること」などが課の求めているものと一致すると、面談時に職員の方々から評価していただきました。他には、私の場合実際の公募から採用までにかかる時間がはっきりとしない状況だったこともあり、インターンの開始・終了時期に柔軟に対応できる状態であったこともありがたかったということでした。個人的には代表部の方が適宜的確なアドバイスを下さり、面談実現など色々と調整に動いてくださったことがポスト獲得に重要な機会につながっただけでなく、精神的にも非常に大きな支えとなり、余裕をもって自分をアピールできることにつながったと大変感謝しています。

■インターンのタスク内容■



(UNODC オフィスの看板前で)

私がインターン期間を通してかかわったタスクは大きくわけて以下の通りです。

1. 人材紹介会社及びそのリクルート手数料と人身取引の関係、この問題に対する司法的対応の在り方を検証するリサーチプロジェクト

このプロジェクトは私がインターンを始めてから動き出したもので、プロジェクトを立ち上げ、動かしていく過程を学ぶことができました。研究成果を出版物にするプロジェクトだったため、リサーチの手法やどのような内容を盛り込むかという構想の決定、実際のリサーチの着手など、プロジェクトの方向性をひとつずつ決めていく過程を任せてもらうことができました。また、プロジェクトドナー国への進捗報告の仕方や、他機関への協力の求め方、研究に必要な知識をもっている人材や組織を見つけ出す方法など実務に必要なスキルも学ぶことができました。

2. 臓器摘出のための人身取引に関するリサーチプロジェクト

このプロジェクトはインターン開始時には既に出版物のドラフトが出来上がっていたので、先行研究との整合性のチェックといったドラフト案の校正作業と、このプロジ

エクトに関する会合準備や専門家とのやり取りのまとめなどが主なタスクでした。

3. 特定の国の現状分析をし、その国に適したプロジェクト内容を提案すること

職員がミッションへ行く前には、その国の人身取引・密入国に関する現状や、これまでその国で UNODC を含む国際機関が行ってきたプロジェクト内容を分析しました。その分析をもとに、問題を解決するためにその国に最適かつ必要と思われるプロジェクトの内容をまとめ、提案することも一つのタスクでした。このタスクによってどの機関がどのようなプロジェクトを過去に行ってきたのか、また、プロジェクト立案の際に注意すべきことなどを学べました。

4. 人身取引に関する EU の動向の報告

私が EU の勉強をしていたため、関連する EU の政策や法の改正、新しい出版物や他機関との連携プロジェクトの動きを報告するようお願いされることもありました。

5. 各国政府との会議で話し合う議題の提案・準備

本部でのインターンであったため、様々な国とのミーティングに参加する機会に恵まれました。その際、その国のかかえる問題や進展などの分析と、UNODC がこれまでその国で行ってきた技術協力や今後の展望などをまとめ、会議で話し合うべき論点を職員にブリーフィングすることも仕事の一つでした。同じ人身取引対策でも、国によって抱える問題が違ふことや、政府ごとに話し合いの進め方が違ふこと、たとえ同じ内容であっても使う言葉や表現で説得力や与える印象が変わることなど、準備・実際の会議を通して色々なことが学べる非常にやりがいのあるタスクの一つでした。

6. 関連分野のプレスクリッピング

職員が最新の情報にすぐにアクセスできるよう、人身取引と密入国に関する世界中のニュースをピックアップし、要約して毎週職員に届けると同時にデータベースに格納していくこともしていました。これによって、各国の政策の違いや、人身取引の中でもメディアに注目されやすい部分とそうでない部分、職員が仕事をする上で必要としている情報の種類など様々な感覚が身につきました。

その他にも、専門家と意見交換し、今後の方針を定める会議 (Expert Group Meetings) の運営サポートや、課と協力関係にある NGO の情報収集やデータ管理、効果的なプロジェクト運営のために鍵となるフィールドオフィスや他機関への協力要請や連絡調整業務、加盟国政府からの質問などの対応も随時行っていました。また、欧州評議会 (Council of Europe) や欧州安全保障協力機構 (OSCE) などが主催する外部の会議に出席し、その内容を課の職員に伝えることもありました。そうした会議には通常は職員と2人で、時には課の代表として1人で参加していたこともあり、他機関からの参加者と深くかかわることができました。外部の会議や UNODC 主催の会議で出逢う他機関の職員とよい関係を保ち続けることも普段のタスク達成のために大切なことでした。たとえば、他機関へいざ協力をお願いする際も、会議で同席した職員との普段からの交流があることによって、スムーズに話を進め仕事をすることができました。

■インターンを通して得たこと・学んだこと■

インターンを通して、国際機関で働くことはどういうことかを体験することができ、今後自分にとって具体的にどういったスキルや経験が必要かを実感として得られたことは有意義でした。さらに、国際機関へ出願する際の注意点も学ぶことができました。エントリーレベルで採用されるための進路の選び方や出願書類の書き方は UNODC 人事部長から1対1でアドバイスいただく機会に恵まれました。エントリーレベルに限らず出願書類提出の際に気を付けるべきこと、面接での受け答えの仕方、試験対策などは課長さんやスーパーバイザー、そして若手職員やコンサルタントの人たちなど多くの職員に実例や実体験を交えて教えていただきました。また、こんなふうになりたいと思える方たちと働けただけでなく、国際機関で働くことを目指している同世代の仲間と出逢えたことも、就職やステップアップに必要な情報の交換を含め、その後の大きな力となりました。

インターンという身分ではありましたが、日常の中ではチームの一員として内容の濃い本質的なタスクを任せていただきました。そのおかげで、国際機関での仕事の仕方の基礎となる部分は学べたような気がしています。仕事の進め方に自信のなかった私ですが、直属のスーパーバイザーだけでなく課の職員全員が見守り、心のこもった指導してくださいました。課の全職員と一緒に働く機会を与えていただけたことで、職員ごとに異なる視点やポリシーを学べたことはとても有益なことでした。何よりも私にとって大きな意味があったのは、私でも大丈夫、私らしくチームに貢献できる方法があるということ。課の職員の方々が教えてくださったことです。また、UNODC ではゴールに向けてチームとして協力する大切さや、どんなときであっても「人間らしさ」や「思いやる心」を忘れないことの大切さも教えていただきました。

■インターン終了後■

インターンを終えた後は修士課程を修了するためにベルギーへ戻り、欧州・日本の国際機関や NGO を中心に就職活動をしました。2014年9月からは、国連開発計画 (UNDP) ニューヨーク本部でプロジェクトマネジメントコンサルタントとして勤務しています。UNODC でのインターンを通して、国際機関でプロジェクトの成果を上げるために「人権」などの知識だけでなく、加盟国政府との調整業務の仕方や、効果的な資金の活用方法をもっと学びたいという気持ちになったことが現在につながっています。今後も様々な機関の視点を学び、いつかまた人身取引や人の移動に関わる国際機関で働きけるよう経験を積んでいきたいと思っています。

私の UNODC での半年は毎日がワクワクする学びの連続で、とても充実したものでした。このインターンの実現のために私を支えてくださった方々への感謝を忘れず、これからも頑張っていきたいと思っています。

(2015年1月執筆)